

Bible Navi
第3課

死よりも強い愛

キリストの苦難と死の意味





世の中に、多くの聖書教材が存在しますが、
聖書の真の意味を教えている本はどれほどあるでしょうか？

Bible Navi 32シリーズは

アルマゲドン戦争、獣の像、666、
この世界になぜ苦難があるのか、偽キリストの存在、
ニューエイジ運動、イエスキリストの再臨、十字架の真の意味、
生まれ変わったキリスト者の生活、聖書の預言と世界歴史の成就、
地獄の真実、創造と進化、健康的な生活、
「アメリカが聖書に預言されているのか？」
七年の艱難は聖書的だろうか？」など、
是非知っておくべき真理を集めました。

真理を探しておられますか？
この32シリーズを通して、永遠の生命を与えて下さるキリストに
お会いできますことを祈っております。

Bible Navi 32シリーズ

編集 SOSTV Japan Mission

TEL 050-1141-2318

Mail sostvjapan@outlook.com

HP sostvjp.net



死よりも強い愛

キリストの苦難と死の意味

Contents

第1部 十字架の隠された意味

- | | |
|-------------------|----|
| ① はじめに | 4 |
| ② 最も高い所から最も低い所に | 5 |
| ③ キリストは第2の死を経験された | 7 |
| ④ 人類に再びチャンスが与えられる | 9 |
| ⑤ 第2のアダムがテストに応じる | 11 |
| ⑥ 記録を変える | 12 |
| ⑦ アブラハムの火の試練 | 15 |
| ⑧ 十字架の赦しとは？ | 17 |
| ⑨ 値が大きすぎるでしょうか？ | 20 |

第2部 世界で最も偉大な愛の物語

- | | |
|--------------|----|
| ① はじめに | 22 |
| ② 寂しい神様 | 24 |
| ③ 神様からのラブレター | 26 |

SOSTV 案内



「正しい人のために死ぬ者は、ほとんどいないであろう。
善人のためには、進んで死ぬ者もあるいはいるであろう。しかし、
まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さった
ことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。」
(ローマ5:7,8)

第1部

十字架の隠された意味

1

はじめに

語

り継がれてきた逸話では、1815年、ワーテルローの戦いに惨敗したナポレオンは、失敗に終わった戦略の問題点がどこにあるかを分析するために、彼の指揮官を招集しました。しばらく討議が行われている中でナポレオンは、色分けされたヨーロッパ地図のイギリスを指して、悲痛な叫びを上げました。「この赤いポイントがなかったら、私は世界を征服することができたはずなのに！」。

同じように、地球の支配を目論むサタンも、昔エルサレム郊外の丘の上に建てられた十字架を指して、同じことを言ったでしょう。私たちの大敵サタンの手から世界を救った、カルバリーの赤く染まる地点について感謝せずにいられるでしょうか？

そこは、この惑星地球の運命を決定づけた場所であり、熾烈な戦いの場でした。サタンはこの戦いの後、すでに敗北した敵になってしまいました。その場所で、サタンは必死に、勝ち目のない戦いを挑みましたが、決定的な敗北をしたため、再び立ち上がって支配力をふるうことは、永遠に出来なくなりました。

十字架上でなされた、キリストの苦難と死の意味を、正しく理解しているキリスト者がどのくらいいるのでしょうか？私たちは、イエス様が戦われた戦いや、イエス様が受けられた苦難と死が、果たしてどのようなものなのか、わずかにしか理解していません。私たちの目が開かれ、イエス様の犠牲と勝利の真の意味を理解するならば、サタンの誘惑や攻撃に屈してしまう悲惨なことはなくなり、私たちは、弱く無力な状態から脱して、どれほど大胆に、勇敢になることが出来るのでしょうか。

聖書の著者たちは、人間の言語を用いて、神様のみ子の受肉と、あがないの死の神秘を説明しようと努力してきました。時々、彼らの靈感に満ちた証言を読みながら感じます。十字架を通して表されたイエス様の犠牲の大きさ、そのへりくだり、忍耐、従順、神様への信頼のすべては、私たちの心に迫り深い感動を与えます。この十字架の愛と犠牲について、永い年月を通して研究したとしても、私たち

は、この主題のほんのわずかな部分しか理解出来ないでしょう。

使徒パウロはこう書きました。「キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた」(ピリピ 2:5-8)。

天の王座におられた神様のみ子が、馬小屋に降りて来られ、人々の間で僕として生活され、十字架の死を受けられるという、これは何という壮大な描写でしょうか！

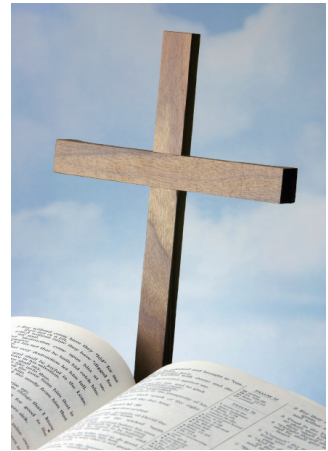
2 最も高い所から最も低い所に

キリストが成し遂げられたことを適切に描写するたとえば、いつの時代にも、またどこにもありません。多くの場合、私たちは彼の犠牲の程度を描写するために、仮想的なたとえ話をしたりもします。

一群の犬が病気にかかりました。腫れ物がグチュグチュし、膿がダラダラ流れています。この時、もし一人の人間が自分を低くして犬になって、群れに治療法を教えるなら犬たちを癒して、死から救い出すことが出来ると仮定しましょう。この時、私たちの中で人間の身分を捨てて、話すこともできない、死ぬばかりの犬になることの出来る人がいるでしょうか？

これはもっともらしい話のように聞こえますが、神様のみ子の屈辱を表すには、あまりにも貧弱なたとえ話です。罪人として死ぬしかないアダムの子孫の一員になられる前に、イエス様が天で持っておられた王としての権威と、そしてイエス様が捨てて下さった栄光の大きさを、私たちはどうてい理解することが出来ません。

ですから、クリスチャンがあがない(Atonement)の本当の意味を理解するのは非常に困難です。現在、なぜこれほど多くの方が、十字架の出来事に関心を持たないのでしょうか？なぜなら、彼らは自分たちの救いのために、神様のみ子が、



どれほど大きな代価を支払って下さったのかをよく理解出来ずにいるからです。もし私たちがそれを少しでも理解するなら、私たちはそのお方に対して感謝を捧げる人生を送らざるを得なくなるでしょう。私たちは、最も多額の投資をして下さったことにふさわしい、最大の応答をするようになるのです。

一度、キリストの犠牲について全く無関心な人に会ったことがあります。ある日私は、伝道集会を終了し、そこに参加した人の家を訪れました。彼は夜の集会によく出席していたにもかかわらず、決心していないビジネスマンでした。私たちは、集会期間の4週間を通して、お互いにとても親しくなりました。ですから、私は彼がキリストを信じない理由を聞くために彼を訪問しました。彼は一度も福音について何の反応も見せなかったのですが、私の質問に対して、「私は救いということが全くわかりません」と答えました。そこで彼に聞きました。「兄弟!もしあなたが今夜死ぬとしたら、永遠の命を得る希望がないという意味でしょうか?」。彼は答えました。「はい。私はキリスト教の信仰を告白したことが全くありませんから」。

あまりにも無関心な彼の態度に驚いた私は、真剣に聞きました。「兄弟、もしあなたが今日の夜に村人10人のサインをもらってくるなら、明日銀行で100万円のお金をあなたにあげると仮定します。そうしたら、これから村に出かけて行って10人のサインをもらってきますか?。「もちろんそうしますとも!」彼は答えました。「村人のサインをもらいさえすれば100万円を受けられるのですよね?」。「その通りです。必ず10人のサインをもらってくれば大丈夫です。その絶好の機会を逃すことは出来ませんよ」。

この人は、救いが本当に素晴らしいものであることに気付かずにいました。私は彼をあきらめることが出来なかったので、祈りながら、より丁寧に彼に言いました。「あなたは、明日までに100万円を得る機会を絶対に逃さないと言われましたね?では、もしあなたが今晚命が終わるとしたら、永遠の命を失うことになるかわかっているながら、どうしてそのことには関心を示されないのですか?なぜ永遠の命よりも、お金にそのような価値をおかれるのでしょうか。そのような評価は、何かが違うのではないのでしょうか。私たちの救いのために払われた犠牲がどれほどのものであるか、はっきり理解しておられないことは明らかです。そうでなければ、キリストの犠牲をこのように軽く扱うことはできないからです」。

この人との対話を通して、彼がキリストの十字架についてこれほど無関心な態度を見せていた理由が分かってきました。彼は多くのクリスチャンに囲まれて生

活し、多くの説教を聞いて来ましたが、キリストの死を、普通の人が考えているように、一つの殉教としか見ていませんでした。しかしキリストの死を、エルサレムで十字刑を受けた、多くの殉教者の死と同じように考えることは大きな間違いです。キリストの死は、他の殉教者の死と比較することができません。なぜなら、キリストはむちで打たれ、手足に釘を打ち込まれ、十字架刑にともなう身体的な痛みや傷によって亡くなられたのではありません。ある人々が残酷な責め苦を受け十字架につけられたからといって、それをキリストの十字架の苦悩と比較することはできません。神様のみ子イエス・キリストの死は、本質的に殉教者の死とは違うのです。では、どのように違っていたのでしょうか？

イエス様はどのような種類の死を経験されたのでしょうか？

聖書は、「彼が神の恵みによって、すべての人のために死を味わわれるためであった」（ヘブル2:9）と述べています。しばらくこのことについて考えてみましょう。このお方は、私の死を、あなたの死を、そして他のすべての人々の死を味わわれました。それはどのような意味なのでしょう？それは、私たちの人生の終わりの日に、私たち自身の死を経験しなくてもよくなったということでしょうか？実は、このことの中に、神様が私たちのために成し遂げて下さった神秘と驚異があります。この時主は、私たちに代わって人間であれば誰でも臨む最初（第1）の死だけではなく、主はこの世に生まれたすべての人々の罪の刑罰としての死である、第2の死を代わりに経験されたのです。

3 キリストは第2の死を経験された

最初（第1）の死と第2の死の違いを知ることは非常に重要です。そうすれば、天の父が、ご自身のみ子が十字架で死なれることをお許しになった理由を理解することが出来ます。天使たちも、十字架に架かっておられるキリストを助けることは許可されませんでした。イエス様は、まるで彼が世界で最も邪悪な罪を犯したかのように扱われるべきでした。その重い罪の荷と罪の刑罰によって押しつぶされながら、彼は血をしたたらせて、ついに地面に向かって頭を落されました。

ゴルゴタの丘で、彼は、父なる神様のみ顔と是認からも絶たれ、その苦みのゆえに叫ばれました。「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」（マタイ27:46）。

皆さんは、先ほどの人の問題が何であったか覚えておられますか？彼は十字

架の痛みの真の意味を理解していませんでした。従って彼は、救いのために払われた代価がどのようなものであるかを、正しく知ることが出来ずにいました。今、この兄弟が気付くべき、また今日の多くの人が正しく評価するべき「十字架の隠された意味」を一緒に見つけてみましょう。

パウロは、「このようなわけで、ひとりの人によって、罪がこの世にはいり、また罪によって死がはいってきたように、こうして、すべての人が罪を犯したので、死が全人類にはいり込んだのである」(ローマ5:12)と言いました。パウロの言葉の中で、私たちはいくつかの疑問点を持つことになります。「一人のアダムが罪を犯したのに、なぜすべての人が死ななければならないのか？」そして「なぜ私たちは先祖の罪のために、罰を受けなければならないのか？」ということです。

アダムはエデンの園にいる時、この世に生まれてくるすべての人々の代表者でした。人類の始祖として、彼はまるで自分がすべての人であるかのように神様のの前に立ちました。このことは、皆さんと私が事実上にそこにいたのと同じ意味を持っています。アダムの形に似た子が生まれましたが、彼らはアダムの遺伝因子と染色体を持って生まれ、アダムの体と心を引き継ぎました。アダムのすべての子孫は、彼らが受けた影響を自分の子孫たちに同じように伝えました。アダムは私たちの祖先であり、アダムの中には各世代ごとに繰り返される遺伝の法則が存在していました。

アダムに何があったので、子孫に影響を与えたのでしょうか？神様はエデンの園に一つの試み(テスト)を置かれました。そのテストは、簡単で、具体的なものでした。「従えば生き、従わなければ死ぬ」という試験でした。私たちは、園の中央にあった木の話をよく知っていますね。神様は言われました。「それを取って食べると、きっと死ぬであろう」(創世記2:17)。アダムが変わらずに、エデンの園の完全な環境下で生きていけるかどうかは、彼の従順いかんにかかっていました。アダムの幸せな未来は、禁止されている木の近くに行かないことを条件に約束されたものでした。しかし、彼はその条件を満たすことが出来ませんでした。

神様の命令に不従順であった場合には、罰を免除したり、または軽くするどのような対策もありませんでした。テストに不合格だった彼らは、死ぬ方を選びました。結果としてアダムが930歳の時に、その宣告は執行され、彼は死んで地に葬られました。

アダムのすべての子孫は、罪のために汚れた性質を持って生まれてきました。

彼らはただ先祖から、遺伝的に受け継いだものを持って生まれてくるしかありませんでした。こうして、すべての人は罪によって墮落した本性を持って生まれてきました。しかし、彼らの先祖が犯した罪の責任(Guilt)を受け継いだわけではありません。彼らが罪を犯したアダムから受け継いだのは、弱くなって罪を好む性質と、道徳的、精神的に弱くなった肉体であって、アダムが犯した罪そのものを受け継いだものではありません。したがって、アダムの子孫たちにとって原罪(Original Sin)というものは、全く当てはまらない言葉です。

罪の結果として弱くなった肉体を持って生まれてくるアダムの子孫たちは、アダムのように死ぬ身となりました。しかし、彼らの死は、アダムの罪のために受ける罰ではありません。アダムのすべての子孫は、遺伝の法則に基づいて、死ぬしかない本性(Mortal Nature)を受け継いだために死ぬのです。彼らの死は、アダムが子孫たちに譲ってしまった退化した肉体のゆえでした。しかし、アダムの死は自分の罪のための刑罰でした。

その時から、罪と死は、この世界で誰も動かすことのできない存在となり、すべての人間は、一度死ぬしかなくなりました。このような状況では、神様が介入して下さらないなら、すべての人の死は永遠の刑罰の死で終わるところだったのです。アダムの命の本質は、彼が罪を犯したときにはすでに終わっていました。最初に与えられた命は、テストに失敗したことで、終了しなければならなくなりました。神様が最初に彼に与えられた、人生のすべての希望は終わりました。今、死一生きる希望のない永遠の刑罰の死—だけがアダムを待っていました。神様がその後、何もなされないなら、アダムと彼の子孫は、それで終わりになってしまいました。

4

人類に再びチャンスが与えられる

アダムが罪を犯した後、神様はすぐに女の残りの子(創世記3:15、おとめマリアにお生まれになったイエス・キリストを象徴する)を通して実現される救済の計画を発表し、彼に新たな機会を与えられました。この二度目のチャンスは、人々が自分たちの罰を代わりに背負って亡くなられたキリストを自分の救い主として受け入れることを条件としていました。この第2の配慮を通して、アダムと彼の子孫すべてに新たな希望を与えられたのです。しかし、この神様の計画が最初のテストに失敗した結果を変更したり、取り除いてしまうものではなかったという事実を

理解しておく必要があります。

またこの事実は、私たちに非常に厳粛で重要な質問を与えます。神様はどのようにして、アダムの罪の刑罰である死を執行なさることによってご自身の尊厳と権威を維持され、同時にまた、アダムと彼の子孫にチャンスを提供なさることによって、すべての人に新たな命を与えることを可能とされるのでしょうか？この時神様は、非常に驚くべき、そして厳粛な方法で、この困難な問題に対処されました。神様は人が正しく生きようが、悪に生きようが、限られた一定の期間の後に死(第1の死)が訪れるように計画されました。

この第1の死は、最初のテストでアダムが失敗した結果として臨むようになりました。しかしすべての人は、第1の死(彼ら自身の罪の結果による死ではない)から復活することになるでしょう。彼らは神様の裁きの座の前に立って、自分たちの生涯の間に犯した罪に対して弁明することになります。このことについては、彼ら自身がその責任を負います。彼らの永遠の運命は、生きている期間にどのように歩んだか、キリストによって与えられた救いの条件をどのように満たしたかという、2回目の試験の結果によって決定されます。

もし人類が2回目の試験で失敗したら、彼らにはそれ以上の試験の機会はありません。彼らは、「第2の死」と呼ばれる最終的な永久的な死を受けることになります。このことは、使徒パウロの言葉によってよく理解いただけるでしょう。「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである」(1コリント15:22)。神様が立てられた贖いの計画には、第1の死からすべての人が復活することが含まれています。

すべての人が、自分たちの行動と選択に基づいて、審判を受けるようにされる必要があります。ある人々は、悪人を単に地獄の火の池に投げ込んで滅ぼすために復活させるだけなら、神様はあまりにも残酷だと言うかもしれません。悪人はなぜそのまま第1の死の支配下に置かれなかったのでしょうか。その理由は、第1の死は、アダムの罪の結果であって、自分の罪のための罰ではないからです。すべての人は、自分の行為と決定に応じて審判を受けることが公正な処置です。公儀を愛される神様は、どんな人にも等しい救いの条件を与えられました。その救いを感謝して受け入れたかどうか、言葉と思いと行動の全てが、全宇宙に明らかにされ、神様の裁きが正当なものであることを知る必要があります。また、本人も神様の裁きと刑罰が正しいことを認めるのです。そのために人は一度死んだ後、甦って審判を受ける必要があるのです。

復活なしに、どのような審判も行うことができず、また、正当な報いを与えることが出来ません。ですから、死んだ義人と悪人を復活させ審判することは、神様の正義にかなうことなのです。

5 第2のアダムがテストに応じる

これまで第1の死と第2の死について学んできたので、今度は、第1のアダムと第2のアダムの役割を見てみましょう。エデンの園でアダムが全人類を代表していたように、第2のアダムであるイエス様はすべての人を代表しておられました。

「このようなわけで、ひとりの罪過によってすべての人が罪に定められたように、ひとりの義なる行為によって、いのちを得させる義がすべての人に及ぶのである。すなわち、ひとりの人の不従順によって、多くの人が罪人とされたと同じように、ひとりの従順によって、多くの人が義人とされるのである」(ローマ5:18,19)。

私たちが見てきたように、第1のアダムに起きたことは何であれ、彼が代表していたすべての人に影響を与えました。同様に、第2のアダムの経験も、すべての人に直接影響を及ぼしたというのがパウロの言いたいことです。創造者であるイエス様は人類家族の一員となられ、まるで彼自身の中に、すべての人が含まれているかのように、神様のみ前に立っておられました。ですからパウロは、「わたしはキリストと共に十字架につけられた」(ガラテヤ2:19)と言いました。「わたしたちは…バプテスマによって、彼と共に葬られた」(ローマ6:4)。「キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいいのちに生きるためである」(ローマ6:4)。人間の生活は、キリストの生涯の出来事と密接に関連しています。

イエス様は第1のアダムが失敗したことを挽回するために来られたので、人類のような肉体をとられる必要がありました。「民の罪をあがなうために、あらゆる点において兄弟たちと同じようにならねばならなかった」(ヘブル2:17)。罪を征服するときに、イエス様が兄弟である人間たちより、ある有利な超自然的力を持っておられたなら、イエス様は、サタンによって公平ではないという非難を受けられたでしょう。サタンは昔から、神様が不合理で、不可能な従順を人間に要求していると非難してきました。イエス様は、人間の肉体と本性を持たれた状態で、神様の要求を満たす必要がありました。また、そうすることによってのみ、サタンの偽り

の訴えに反論することが出来ました。これは誰もが天の父への信仰と聖霊の助けを受けて、罪と誘惑に勝利することが出来ることを証明するためでした。

人間の肉体を取られたイエス様は、アダムが失敗したことについての完全な模範となられ、全ての人の救いの基礎となられました。それは罪と死への完全な勝利でした。すべてのアダムの子孫は、アダムの失敗の結果と影響のために、律法に従うことは不可能になりました。アダムの子孫である人類は、死ぬしかない運命を持って生まれ、互に憎み憎まれる、悲惨な人生を歩まなければならなくなりました。しかし、第2のアダムであるイエス・キリストの完全な勝利のゆえに、アダムの家族が救われるための命のドアが開かれたのです。これこそ驚くべきニュースではありませんか？

6 記録を変える

第1のアダムは、身体的な出生を通して、罪によって弱くなり、墮落した肉体と死を子孫に継承しました。しかし、第2のアダムは、霊的な出生（聖霊によって生まれる）を通して、ご自身の罪なく純潔な品性—神様の性質、勝利と永遠の命—をご自分の霊的な子供たちに譲って下さいました。第1のアダムが失敗することによって生じた、すべての結果と影響が、第2のアダムによって完全に回復されたのです。

しかし、すべての人は、その人自身が霊的な出生、つまり、聖霊によって新たに生まれることによってのみ、イエス・キリストの家族の一員になることができるという点を忘れないで下さい。キリストへの信仰を通して、人間の心と魂の再創造がなされますが、まさにこれが人間を、絶望的でどうしようもない状態から、救って下さる経験です。

「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである」(コリント5:17)。

自分が属している系図が、アダム由来のものから、キリストの系図へ変わるといふ聖書の教えは、世の中の人々にとって理解できないクリスチャン経験の一つです。すべてのアダムの家族は、イエス・キリストを信じる信仰によって新たに生まれる経験を持ち、これにより、信じる者たちは、イエス・キリストの家族になります。新たに生まれるという新生の経験は、ある難解な理論でもなく、神秘的な体験でもありません。それは私たちの心と生活の中で起こる、最も実際の経験です。新生は、私たちの心と品性の変化をもたらします。この経験が非常に実際のであ

るように、新しい家族としての特権も実際的です。その特権があまりにも大きいため、新しく生まれたクリスチャンでさえ受け入れることの困難なことが、新しい家族関係の下で起こる、地位と権威と所有権の完全な変化です。彼らは神様の子供たちが受けることの出来る、すべての富と祝福を受けるようになります。

この新しい霊的な関係には、信じられないほどの驚くべき約束があります。「御霊みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる。もし子であれば、相続人でもある。神の相続人であって、キリストと栄光を共にするために苦難をも共にしている以上、キリストと共同の相続人なのである」(ローマ8:16,17)。パウロは、私たちの前に信じられないほどの約束を提示しました。「共同の相続人」(Join-heir)という言葉は、すべての家族の財産に対して同じ権利を持っている人を意味します。私たちがどのように無限の富(Wealth)を相続することができるのでしょうか？私たちは、現在直面している悲惨な貧困から抜け出し、今、宇宙を神様と共に所有することができる特権を持つことが出来るのです。神様の所有物の中には銀河と宇宙の他世界も含まれています！

信仰によって私たちは、私たちが所有することが出来る富の存在を、理解することが出来ます。イエス様と一緒に、私たち各個人が、父なる神様のすべての霊的な豊かさを、共有することになります。彼が持っておられるものは何でも、私たちが共に所有することになります。パウロは聖霊に満たされ、人生の無尽蔵の資源を次のように述べました。

「神に満ちているもののすべてをもって、あなたがたが満たされるように、と祈る」(エペソ3:19)。このような壮大な言葉を、果たして誰が理解できるでしょうか？私たちが造り、私たちのためにご自身のひとり子さえ死に渡してくださった愛の神様は、今、ご自分の息子が持っているすべてのもの、いいえ、ご自身が持っておられるすべてのものまで、私たちに分け与えたいと願っておられるのです。

天の王が持っておられる驚くべき財産と共に、私たちは天の家族の名前を持つようになります。また、家族がお互いに似た性格を持っているように、新たに生まれ変わったクリスチャンは、天の父の品性に似るようになります。私たちは天の家族に入籍されたときから、新しい父と長兄に似た者にされていきます。

「造り主のかたちに従って新しくされ、真の知識に至る新しき人を着たのである」(コロサイ3:10)。初めに、アダムは神様のかたちに似せて造られたので、「神の子」と呼ばれました。私たちは創世記の「神が人を創造された時、神にかたどって造り…。アダムは百三十歳になって、自分にかたどり、自分のかたちのような男

の子を生」(創世記5:1-3)んだという記録から、そのことを読み取ることができません。

息子が父親に似るように、最初アダムは神様に似ていました。しかし、罪のために、その姿を失うようになりました。ですから、アダムの息子は、神様に似ることはなく、アダムに似るようになりました。しかし、真の新生を通して、人間は罪を犯したアダムの姿をなくし、自分を新たに造られたイエス様に似るようになります。

ところでこれは、実際的な経験でしょうか?それとも象徴的なことなのでしょう?神様は、人間が神様の形に回復されたと見えるように、ある幻覚作用を起こされるのでしょうか?それとも、魂の中で実際的な変化が起きるように、力を付与されるのでしょうか?神様の義は、人間に象徴的に与えられるのでしょうか?それとも、実際に人間に分け与えられるのでしょうか?

神様の義が人間に与えられることが、単にそう見なされることだけだと思っている人、つまり生まれ変わったクリスチャンであっても、ただ義と認めてもらうことだけだと思っている人々がいます。しかしそのような人々は、本当のクリスチャンが、実際に罪に勝利することが出来、キリストのうちにあって、聖なる生涯を生きていくことが出来るようになることを信じない人々です。ところがパウロは、非常に明確に述べています。

「ひとりの従順によって、多くの人が義人とされるのである」(ローマ5:19)。

天の父の子供となると同時に、クリスチャンは父なる神と、長兄であるイエス・キリストに似たものとして新生します。そして、まさにこの新しい霊的な出生によって、真のクリスチャンはアダムから受け継いだ性質を克服することが出来るようになります。そして、罪人の運命である第2の死から救われるのです。

キリストは、最初のテストでのアダムの罪の罰である第1の死を取り消されず、ご自分も同じ罰を受けられました。さらに地上に来られたキリストは、第2のテストにおいて、彼の死を受け入れる全ての人々が第2の死を受けなくてよいように、人類の身代わりとして第2の死の恐ろしい刑罰を受けられたのです。

キリストは十字架で、私たちのために罪を負い、その罪が要求する刑罰を受けられました。そのときキリストは、父のみもとから送られる一筋の希望の光もなく、数十億の失われた魂が味わわなければならなかった闇に包まれました。彼はすべての人のために永遠の滅亡という第2の死を味わわれたのです。(ヘブル2:9)

イエス様がそのような経験を通してされることは、簡単なことだったでしょうか？父なる神様が、ご自身の最愛の子と分離され、その子をまるで最も凶悪な反逆者のように扱うことは簡単なことだったでしょうか？父なる神様とみ子キリストの激しい痛みを、ある程度だけでも理解できる人は、この世にただ一人しかいません。その人はアブラハムです。彼は自分の一人息子を諦めることで、十字架の苦悩に寄り添った最初の人となりました。

パウロは、「聖書は、神が異邦人を信仰によって義とされることを、あらかじめ知って、アブラハムに、『あなたによって、すべての国民は祝福されるであろう』との良い知らせを、予告したのである」(ガラテヤ3:8)と言いました。イエス様は、アブラハムが贖罪のための特別な啓示を受けたことを認めました。「あなたがたの父アブラハムは、わたしのこの日を見ようとして楽しんでいました。そしてそれを見て喜んだ」(ヨハネ8:56)。

旧約時代の信仰者アブラハムが、メシアの救済に関する預言的な洞察をすることが出来たのかを理解するために、私たちは、モリヤ山での彼の経験にさかのぼる必要があります。アブラハムは、最初彼の妻サラが妊娠できない状態であって、神様が彼に息子を与えるという約束を信じ切っていませんでした。そこで、生と死についてもう一回テストを受けなければなりません。神様は彼に、息子イサクを祭壇の上に捧げるよう言われました。モリヤ山までの孤独な寂しい彼の旅の記録は、聖書の中で最も感動的な話の一つです。

アブラハムは、神様の命令の確実性について疑いませんでした。彼は神様の友であり、そのお方の声に慣れ親しんでいました。アブラハムは、神様が下された命令の理由を理解することが出来ませんでした、その声に従いました。彼は、イサクを通してメシアが来られるという約束を、すでに何度も繰り返して聞いていました。今、この世界が自分の息子イサクを通して祝福を受け、救われるはずなのに、その子の命を取るという命令が下されたのです。もしイサクが祭壇の上で火に焼かれるなら、約束された救い主はどのように来る事が出来るでしょうか？

二人の親子がモリヤ山のふもとに到着したときに、アブラハムは信仰を持って、神様の復活の力を断固として主張しました。彼は僕たちに言いました。「わたしとわらべは向こうへ行って礼拝し、そののち、あなたがたの所に帰ってき

ます」(創世記22:5)。アブラハムのこの言葉には、約束の成就を信じていないある種の疑いや、動揺のたぐいはありませんでした。死者が復活した事件など、それまで一度もなかったのですが、それでもアブラハムは、神様がイサクの子孫になさった約束を成就して下さることを信じていました。

アブラハムが、彼の従順な息子に向かって剣を振り上げたとき、彼は誰も経験しないような激しい試練を受けました。それは実際に我が子の命を取ろうとする行動でした。その剣を一度降り降ろしてしまえば、彼は自分自身と、この世のすべての人の唯一の希望を滅ぼすことになるのです。その瞬間アブラハムは、世界の運命を自分の手に握っていたのです。それは父性愛(Fatherly Affection)のテスト以上のものでした。アブラハムがイサクを殺すことは、世界の救世主が生まれる通路をなくすことでした。それは、父である自分自身を殺すことよりも大きな苦痛を伴うものでした。イサクを通してでなければ、メシアが誕生することが出来ないという神様の明確な言葉が引き続き彼の耳にこだましました。このアブラハムの試練が、どれほど激しいものであったか、理解できるでしょうか？ヨハネ8章56節で、イエス様が「あなたがたの父アブラハムは、わたしのこの日を見ようとして楽しんでいました。そしてそれを見て喜んだ」と言われたことは、少しも不思議な言葉ではありません。

ただし、最後の瞬間に、主の使いによってアブラハムの腕が留められ、神様があらかじめ用意しておかれた他の犠牲がイサクの代わりに捧げられました。ですがアブラハムにとって、その日は本当に自分の息子を燔祭として捧げたのでした。彼は一人息子の死という胸が引き裂かれるような痛み、苦しみ、恐怖などを経験しました。しかし彼は、自分の息子の命を救うことができる能力があったとしても、それをういなかっただしょう。アブラハムが、イサクをいけにえとして捧げる事を拒否していないことが十分に立証された後で、ようやく神様が介入されました。

アブラハムの信仰と、父の意志に服従したイサクの信仰のゆえに、神様を賛美しましょう。この感動的な話が、私たちに与える意味が何であるか、理解していない人はいないでしょう。この話は、すべてのクリスチャンに、贖罪の愛と犠牲の大きさを幾分か理解させてくれます。今、私たちが十字架の上で、父なる神様とみ子がどのような苦しみにあわれたのかを、かすかに理解できるのはそのためです。神様の公義は、人類の罪の代価である死を要求し、神様の愛は、ご自身の息子を永遠の滅亡へ引き渡す犠牲を提供したのです。

ここで私たちは、神様の愛と犠牲をもう少し詳しく説明してくれる、天のドラマのもう一つの面を見てみましょう。第2のアダムであるキリストの死が、罪を犯したすべての人々にどのように赦しを提供してくれるのでしょうか？聖書は、「血を流すことなしには、罪のゆるしはあり得ない」（ヘブル9:22）と言います。問題は、キリストの死がどのように、罪の赦しを可能にするのかということです。この質問は、これまで私たちが学んできたすべてのものの本質と言えます。そして、罪人を赦す権威を得るために、イエス様は、第2の死を経験される必要があったのです。

赦しは自分自身ですることはできません。また、他の人を赦してあげる人は、必ず彼が赦す人の犯した過ちの結果を喜んで引き受けます。たとえば、私が誰かの借金を赦して帳消しにするとすれば、私はそのお金の損失を引き受ける準備が来ている必要があります。私の友人が拳で私を一発殴った場合、私とその友人を赦すには、彼に治療費を請求せずに、喜んで、その苦痛に耐えなければならぬでしょう。

公義は、すべての犯罪者に、自分が犯したことに比例して償いをするように要求します。つまり、目には目、歯には歯、拳で一回殴った人は、彼も同じように一回殴られる必要があります。しかし赦しは、犯罪者が受けて当然の罰から彼を救ってくれます。そのとき赦す者は、犯罪者が罰を受けずに無事に家に帰るために、自分がその結果、すなわち、罪の負債を受け入れる必要があります。

例を1つだけ挙げます。ある父親が自分の息子を殺した犯人を赦すこと望んでいると仮定してみましょう。殺人者が犯罪者として刑罰を受けないようにするためには、事実上、法律が殺人者に要求している刑罰である死刑を、誰かが引き受けなければなりません。自分の息子に及んだ犯行の刑罰を、誰かが受けることによって、法の正義が満たされ、赦しが可能になるのです。

このたとえを通して、私たちにとってあがないがどういふものであるか、幾分か理解できるようになります。今私たちは、神様と人間との間の壊れた関係の修復の問題を扱っていますが、これがまさに赦しであり、あがないです。赦しはいつも、間違ったことをされた側と、過ちを犯した側、両者に関係します。間違ったことをされた方は神様であり、人間は罪を犯した側です。

公義は、罪の正当な賠償を要求します。方法は二つしかありません。法と正義

によって規定された刑罰を執行するか、それとも法と正義が要求するものを誰かが代わりに支払うかです。人間が罪を犯した場合、「罪の支払う報酬は死」(ローマ5:39)ですから、死刑が執行されるか、誰かが身代わりになって死を受けるかしかありません。そこでイエス様は、律法が罪人に要求する罰である第2の死の苦しみを受けて下さり、罪人である私たちを赦して下さいました。

罪に対する罰は、第1の死ではなく、第2の死です。これがまさに、十字架上でキリストが受けられた深い苦悩であり、他の殉教者たちの苦しみと比較することができない理由です。ローマ時代に数々の犯罪者が、キリストが十字架につけられたのと同じ方法で処刑されました。しかし、彼らは第1の死である肉体的苦痛だけですみました。イエス様は、最も邪悪な罪人が、硫黄の火の中に投げ入れられる苦悩と恐怖を感じ、罪の報酬である第2の死の恐ろしさを経験されました。彼の鋭敏な性質は、あらゆるねたみ、怒り、不安、孤独、暴力、殺人などの凶悪な罪の思いを注ぎ込まれ、激しい衝撃や痛みや恥辱を受けられました。

神様のみ子が罪そのものとなられ、罪の刑罰を受けられたこと、これ以外には、私たちの救い主の命が失われたときに、彼を襲った精神的な苦悩の大きさを説明することはできません。ゲッセマネの園から、イエス様は人類が重ねてきた罪を、ご自分の胸で負われました。天父からの一筋の光も十字架上のイエス様には届くことはありませんでした。

罪人に赦しを提供するために、罪人の罪責を、代わりに引き受けて下さった主の精神的な苦悩と、第2の死を受けるときに罪人が感じる苦悩の間には何の違いもありませんでした。

天の父と完全に隔てられた状態で、あなたと私の罪を背負いながら、苦悩される神様のみ子の姿を考えてみて下さい。またこのとき、父なる神様は、ご自分のみ子と同じ苦しみを味わってはおられなかったと考えないで下さい。邪悪な人間たちが、ご自分のみ子を十字架に架けて死なせることを、全能の神様が耐え忍べたのは、神様がみ子イエス様を愛しておられたのと同じように、私たち罪人も愛しておられる決定的な証拠です。神様に必要とされた選択は非常に単純でした。私たちを律法の下に罰して、ご自分の息子を生かされるか、ご自分の息子を律法の下に罰して、私たちを生かされるかのどちらかでした。神様には、その他の選択はありませんでした。

律法が犯されました。神様の品性を反映する聖なる完全な律法は、変更されたり破棄されることがありません。必ず罪に対する刑罰が行われるべきなのです。

しかし、父であられる神様は、ご自分の律法を破った者たちを愛されました。また、主はご自分のみ子も愛されました。

主の十字架の場面をもう一度見てみましょう。神様は邪悪な者たちが、イエス様の顔を手で殴り、唾を吐きかけるのを見ておられました。主の衣の端に触れただけでも死んでしまうような者たちが、イエス様に釘を打ち殺しました。神様は、そのような者たちを打って、瞬時に取り除くことがお出来になりました。神様は、彼らの残酷な虐待と侮辱からご自分の息子を救い出すことがお出来でした。しかし、もしこの時、神様が介入されたなら、ただ一人の人間も、永遠の命を持つことはできなくなったのです。アダム、アブラハム、ヨセフ、ダニエル、その他アダムのすべての子孫は望みなく、永遠に滅びることになるのです。彼らの復活は、完全に神様の最愛のみ子の死と復活にかかっていたのです。神様は、全知のお方ですから、まだ生まれていないあなたを含むすべての個人の顔と名前を覚えておられたことに間違いありません。

十字架のその瞬間、神様は皆さんと私のことを思われたことでしょう。神様は私たちのすべての悲惨な失敗を知りながらも、私たちが永遠にご自分と一緒にいることを願われました。また神様は、その驚くべき代価を払って提供された救いと救いがあるにもかかわらず、大多数の人びとが永遠の命を拒んでしまうことも知っておられました。しかし、神様は非常に少数の人々が、神様を愛し、ご自身の息子の身代わりの死を感謝と喜びで受け入れることをご覧になりました。そこで神様は、み子の苦しみに目をつぶり、ご自分の息子が犯してもいない罪の重荷の下に押しつぶされ、第2の死の苦しみの中で死ぬことを許されました。太陽でさえその恐ろしい場面から顔を隠して、漆黒のような闇が十字架を囲みました。地もこの驚嘆すべき出来事に身震いして、激しい地震が起きました。そのときイエス様



は、「すべてが終わった」と大きく叫びながら、ご自分の人生を捧げられました。
(ヨハネ19:30)

9 価が大きすぎるでしょうか？

こうしてついに、赦しと救いのための代価は支払われました。神様のみ子の死は、高価すぎると思われませんか？しかしそれよりも、全ての人のために捧げられたこの計り知れない尊い犠牲が、無意味な投資となり、無意味な犠牲となっていることの方が問題です。大多数の人がこの犠牲に無関心であり、知ろうともせずに、拒否してしまっています。皆さんはいかがでしょうか？今、その犠牲がどれほど大きいものであるか、少しは理解しておられるでしょうか？あなたの救いのために、主が払われた犠牲について、少しでも感謝する心が生じているでしょうか？

これまで私たちは、罪のあがないについて焦点を合わせてきました。そのあがないは、これまで地球上に存在していた全ての男女に、どのように提供されているかを見ました。イエス様を十字架上で死なせるように迫ったものは、私たちに対する神様の愛でした。その愛の大きさと深さは、たった一人の魂のためであっても、この方にこのような犠牲を払うように導いたことでしょう。私は、神様が「この世を愛」されただけでなく、「この私」を個人的に愛して、ご自分の息子を与えられたという事実を、毎日思い起こします。救いの計画の驚くべき特性は、主の死があらゆる個人に適用されるということです。

人々へのキリストの愛は、聖書の全ての場面に描写されています。私たちは、イエス様が語られたこと、なされたことを通して、このお方の愛を知ることが出来ます。主は一人の人の救いのために自分の時間をさかれ、努力を傾けられました。私たちは、イエス様がゲラサの狂人を救おうとして海を渡り、危険な航海をされたことに、このお方の愛を見ることが出来ます。嵐が激しく猛り狂うガリラヤ湖を渡るには2日を要しました。彼は貴重な時間を、たった一人のために惜しみなく用いられました。その大変な伝道旅行によって、たった一人だけが直接主と会って話をすることが出来ました。しかし、その彼が、後に村中の人々の心を救い主に向けさせる働きをしました。

主はニコデモとお会いになり、ハンセン病の人、遊女、無視されていた取税人などと対話していかれました。それを見ても、このお方の個人的な関心と愛を知ることが出来ます。イエス様は地位や財産の有無を問わず、人々と時間を過ごされました。

イエス様は、永遠の命を得させるためにご自分が仕えるべき存在として、私たち一人ひとりをご覧になります。イエス様がシモン、ザアカイ、マグダラのマリアなどと接触されたことは、まさにそのことを表しています。神様はすべての魂の中に、永遠にご自分の品性を反映するようになる驚くべき可能性を見られました。イエス様は、人の姿をとられたことで、一人ひとりに直接出会うことが出来、話し、触れることが出来るようにされました。真理を求めて天を仰ぐ魂は、イエス様がこの世に来られたことによって、救われるのです。

主が十字架に架かれるときに、その苦しみの杯を飲ませたものは何だったのでしょうか？主は十字架の闇の向こうに、やがて神の家族として迎えられる一人ひとり、あなたの顔を見ておられたのです。

聖書が伝える、あがないに関する最も驚くべき言及は、ヘブル人への手紙12章2節です。「信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもちとわなないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである」。

主は十字架のその恐ろしい経験の中で、どのようにして喜びを見られたのでしょうか？イエス様には、十字架の屈辱さえいとわなくさせる喜びがあったのです。「自分の前に置かれている喜び」とは何でしょうか？ここに、主がご自分を犠牲にすることが出来た秘密が含まれています。主は私たちを、ご自分の永遠の王国に迎え入れるという大きな望みのゆえに、その働きをなさったのです。耐えられない苦しみを主に耐えさせたのは、私たちを望み、私たちを愛し、私たちと永遠に共に過ごしたいとの願いでした。主は十字架の残酷極まりない苦しみを耐え抜くために、皆さんと私を思われたのです。



第2部

世界で最も偉大な愛の物語

1

はじめに

人の魂には、神様のみ子が身代わりを申し出て下さるほどの、それほど大きな価値があるのでしょうか？永遠の生命を考えると、その通りです。救われた一人の魂は、これまで地球に存在していたすべての人口の合計数よりも、はるかに長く生きることができるという驚くべき事実を考えてみて下さい。実際、救われた一人が生かされる永遠の生涯は、この地球上に存在していた総人口に、一人ひとりの年齢を掛けた数字の数百万倍よりもはるかに長いのです。このような角度から見ると、救われた一人の魂の命は、滅亡したすべての人の命よりも長い命となります。

永遠のみ国においてイエス様は、周りに集まる男女や子供たちの顔をご覧になるたびに、この事実を認識されることでしょう。そして、かつては最も墮落していた人たちが、永遠の喜びに輝いて神様のみ業を賛美する姿を見て、ご自分の愛が何一つ無駄ではなかったことを喜ばれるでしょう。

カルバリーの丘で払われた驚くべき犠牲を考えるなら、誰も人類に対して果たされたイエス様の使命を軽く評価することは出来ません。おそらく今この文章を読んでおられるあなたが、この救い主の愛と恵みについての、永遠の証拠となる人かもしれません。あなたの救いのために、これほどまでに莫大な値が払われたのです。これほど尊い愛は、かつても、また今後も決してないものなのです。

信仰によってただ一步踏み出すことで、私たちは第1のアダムから受け継いだ、罪と死の法則から離れて、第2のアダムが持っておられた、計り知ることのできない富(豊かさ)を得ることが出来るようになります。私たち自身を完全に主に屈服させ、彼の義を受け入れた瞬間、私たちは、イエス様だけが持っておられる神様との平和と永遠の命を、私たちも共に受け継ぐようになります。これは私たちが本来受けて当然の、有罪宣告と刑罰と死を、イエス様が喜んで身代わりとして引き受けて下さったからです。

どれほど驚くべき交換でしょうか？これは永遠にわたって、私たちの研究の対象になるでしょう。永遠の歳月が経つにつれ、私たちは彼の身代わりの犠牲と愛の素晴らしさを、ますます深く、より新しく認識することになるでしょう。「わたしたちは、こんなに尊い救をなおざりにしては、どうして報いをのがれることができようか」(ヘブル2:3)。ヘブル人への手紙のこの質問には答えが書いてありません。報いとしての刑罰を逃れることは決して出来ないからです。これほどの、驚くべき代価を支払って提供された救いを、今すぐ受け入れて下さい。それを無視することは、もはや誰にも出来ないのです。



ある日、有名な伝道者であるD・ムーディー牧師がシカゴで説教していました。そのとき、少し酒気を帯びているように見える人が、教会の中に差し込んでくる光を見ながら、教会の階段を上がってきました。教会のドアを開いた彼は、ただ正面の説教壇の後ろに掲げられた標語に目をとめました。《神は愛である》。彼はドアを荒く閉めた後、階段を降りながら、次のようにつぶやきました。「神は愛だと？神は愛ではない。もし彼が愛ならば、私を愛しているだろう。しかし、彼は私を憎んでいる！」。

彼は、ふらつく足で帰りかけながらつぶやきました。しかし、教会で見たその言葉は、酒でもうろうとした頭の中に残りました。ある力が彼を再び教会に導いているようでした。彼は引き帰り、最終的には、彼はその教会の信徒たちと一緒に席に座りました。その間ムーディーは説教を続けていました。

説教が終わった後、ムーディーは教会員と握手をするために入口に行き、人々と挨拶をしました。すべての信徒が教会を去っても、その人は席を離れることなく、座ったまま泣いていました。ムーディーは彼のそばに座って、肩に腕をかけた後、「私はあなたのために何か助けることが出来るでしょうか？今日は私の説教の中で、どのような内容があなたの心を感動させましたか？」と尋ねました。

彼は、「ああ、ムーディー先生、私は今日、あなたがされた説教を一言も聞きませんでした。私はただあなたの頭の上に見えた《神は愛である》という言葉

を読んだだけです」と答えました。ムーディーは、彼のそばに座ってしばらくの間、彼と話をしました。しばらくして、彼はムーディーが信じる神様を、自分の心に受け入れました。

兄弟姉妹のみなさん、「神様は愛」です。神様のなされたすべてのことが、愛を証しています。彼は愛によって人をご自分に似せて創造され(創世記1:27)、愛によって人に「栄えと誉とを」(詩篇8:5)与えられたのです。イエス様は言われました。「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」(ヨハネ3:16)。そうです、神様は愛です。主が私たちを愛しておられます！

この神様の愛を知ることは、私たちが永遠の命を得ることなのです。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストを知ることであります」(ヨハネ17:3)。父なる神様とイエス様を知ることは、本当に永遠の命を意味します。ですから、彼についてもっとよく知るために、一緒に勉強してみましょう。彼を知ることで、彼をさらに深く愛することが出来るようになるのです。

2

寂しい神様

神様は、ご自分が最高に関心を持っておられる対象と、いつも一緒にいたいと望んでおられます。もし私が、神様は、以前ご自分が人と分かち合っておられた交わりが絶たれたので、孤独であると言ったら、あなたは、私が人の感情を神様にまで適用していると思われませんか？

創世記3章は、人間が罪に陥る悲劇について語っています。それだけでなく、「彼らは、日の涼しい風の吹くころ、園の中に主なる神の歩まれる音を聞いた」(創世記3:8)とあるように、夕暮れ時の静かな時間に、アダムとエバの顔を見て会話を楽しんでおられた、神様の習慣について記録しています。

神様は、いつも、太陽が沈む頃にアダムとエバの所を訪問しておられたのです。「アダムよ、あなたはどこにいるのか」と呼ばれましたが、その日はなんの返答もありませんでした。アダムとエバは、嬉しくて飛び出す代わりに、木の間に隠れて

いました。しばらくしてから、二人はいちじくの葉で体を隠したまま、びくびくしながら出てきました。アダムが言いました。「園の中であなたの歩まれる音を聞き、わたしは裸だったので、恐れて身を隠したのです」(創世記3:10)。

人間の言語の中で最初の違和感のある言葉が登場しました。「恐れて身を隠した」。神様の最高傑作であり、優雅で高尚な被造物が、恐れている姿を想像してください。これこそが罪の生んだ結果です。罪は、人に、自分の親や親友さえも恐れさせます。最も勇敢な人も最も臆病になり、恥ずかしさに顔を隠すようにさせます。

しかしそのとき神様は、最初の夫婦に、彼らの罪を除去するための驚くべき計画を示して下さいました。アダムとエバは、エデンの園から追放されるのですが、寒い外の世界に出るために、自分たちの体を保護する暖かい服を着なければなりませんでした。そこで、「主なる神は人とその妻とのために皮の着物を造って、彼らに着せられた」(創世記3:21)と聖書に書かれています。

ああ、その服は間違いなく、最も美しい服だったことでしょう!なぜなら、その服には創造主の技量と愛が込められており、彼らへの深い同情が込められているからです。しかし、その革の服を作るためには、一つの命が死ななければなりませんでした。少なくとも一匹の動物が、アダムとエバのために死ななければなりませんでした。罪の支払う報酬がどのようなものであるか、言葉では表現できない教訓が彼らに与えられました。

私たちには、次のような神様の声が聞こえてこないでしょうか?「子たちよ、もしあなたが罪を犯すなら、あなたの手で傷のない完全な羊を殺さなければならぬのだよ。羊が流す血は、あなたがたのために流される私の子の血を象徴しているのだよ。完全な羊は、あなたに永遠の命を与えるために、この地に下ってきて死ぬ生命を意味しているのだよ」。

ああ、何という信じがたい、驚くべき愛でしょうか!

ある村に一人の牧師が住んでいました。彼には中学校に通う14歳の息子がいました。ある日の午後、息子が通う学校の先生が訪問して牧師に次のような質問をしました。

「お宅のお子さんは病気ですか？」

「いいえ。どうしてですか？」

「今日学校に来ませんでした」

「そうですか？」

「今日だけでなく、昨日も来ませんでした」

「まさかそんなはずは・・・」

「その前日にも来なかったんです」

「信じられない。ちゃんと朝は元気よく出かけて行ったのに！」

「私はお子さんが病気だとばかり思っていました」

「いいえ、うちの子は病気ではありません！」

「ああ、もっと早くご両親にお伝えするべきでした」

父親は力を失った声で「今日は訪ねて下さりありがとうございます」と言い、先生はすぐに家を出ました。

父親はソファーに座って深く考え込んでいました。しばらくするとそっとドアの開く音が聞こえ、父は、息子が帰ってきたことを知りました。父はすぐに玄関へ行ってドアを開けました。息子が父親の顔を見たとき、ここ三日間のことが分かってしまったことを悟りました。息子は学校が面白くなくて、野山で遊び回っていたのです。父は息子に「ちょっと書齋に来なさい」と言いました。息子は書齋に入り、ドアは固く閉じられました。父が先に言い出しました。「息子よ、学校の先生が今日の午後に立ち寄ってくれた。君が今日学校に来なかったと教えてくれた。今日だけでなく、昨日も一昨日も。先生は君が病気だと思って家に来られたが、君が学校に行っていないことが分かった。私の心がどれだけ傷ついたかわかるかい？私は君を信頼していたのだ。私は私の友人や近所の人たちには、いつも『私の息子信じています』と言っていた。しかし君は、この三日間、私をだましていた。私が君をどれほど信頼しているか知っているはずなのに、君はこのようなことをした・・・。私はこの痛む心をどのように君に説明すればいいのかと思う」

その息子にとって、父親がこのように静かに語ってくれたことは、彼の心をいっそう苦しくさせました。もし父親が彼に乱暴に語ったり、むちを持ってきて話をしたのなら、彼はそう苦しまなかったかもしれません。しばらくの間、静かな時間が流れていきました。やがて、父が言いました。「息子よ、共にひざまずいて祈ろう」。息子はますます困惑しました。息子は今、とうてい祈る気持ちにはなれなかったからです。しかし、父はひざまずいて祈り始めました。父は自分の苦しい思いを神様に訴えました。息子は、自分が父の心にどれほどの悲しみと痛みを与えたのかを、少しずつ実感してきました。息子は、自分のためにひざまずいている父の姿に、自分の罪を見ることが出来ました。

祈りを終えて立ち上がると、父親の目は涙で濡れていました。息子の目にも涙のあとが残っていました。父が言いました。「息子よ、罪があるところには、痛みがあるのが宇宙の法則だ。誰もその二つを分離することはできない。苦痛が存在するという事は、そこに罪があるという事実を証明することなのだ。君は罪を犯したのだ。罰としてこうしよう。君は今日から3日間、屋根裏に行きなさい。そこにベッドを用意するから、そこで寝なさい。お母さんが食事の時間に食べ物を運ぶから、君が私に嘘をついていた期間だけ、そこにいなさい」。

息子は一言もありませんでした。彼らは屋根裏に上がってベッドを作り始めました。父親は黙ってその作業を終わると、息子をそこに残して降りてきました。しかし、彼の心はまだそこに一緒にいるようでした。夕食の時間になって、両親は食事を始めましたが、息子のことを考えると食事が喉を通りませんでした。食べ物を嚙んでも、口が乾いて味を感じることなく、食事を中断せざるを得ませんでした。

彼らはリビングルームに座りました。父は新聞を読み始め、母は電灯の下で編み物を始めました。9時を知らせる時計の鐘が鳴りました。しばらくすると、10時の鐘が鳴りました。母親が言いました。「あなた、もう寝る時間ですよ」。しかし、父親は「もう少ししたら行くから、先に寝ててくれ」。母親ももう少しだけ一緒にいると言いました。

時計はすでに11時を過ぎ、12時になろうとしています。ついに二人は寝室に向かい、ベッドに入りました。しかし、なかなか眠ることが出来ません。二人とも眠ったふりをしていましたが、お互いにまだ寝ていないことを知っていました。やがて母親が言いました。「あなた、寝ていないのですか。お休み下さい」。父親が答え

ました。「私が眠れないことが分かったのかい？君も寝ていないんだね。」

「今息子が屋根裏部屋にいるのに、どうやって寝ることが出来るでしょう？」「私もそれで、眠ることができないのだよ」と父が答えました。時計が12時を知らせ、1時、2時、3時を知らせましたが、まだ眠れませんでした。

ついに父が言いました。「なあ、私はもう我慢することができない。屋根裏部屋の息子のところに上

がって行くことにする」。父は枕を持って部屋を出て、屋根裏部屋に上がりました。そして息子の眠りを覚まさないように、取っ手をそっと回してドアを開けました。屋根裏部屋の床を横切って窓側に行き、寝ている息子を見下ろしました。息子は人の気配に驚いて、目を見開いて見上げました。父は黙ってベッドの中に入り、二人はお互いの首の下に腕をやりました。なぜなら、彼らはいつも親友だったからです。父と息子、彼らは本当に親友でした。涙がお互いの頬をぬらしました。しばらくして、彼らは深く安らかな眠りにつきました。

次の日も、父は「妻よ、私は今夜も息子と上がって行かなければならない」。二日目の夜にも、彼らは屋根裏部屋で一緒に寝ました。三日目の夜にも「妻よ、今夜も私の息子と一緒に上って行くから」。父は自分が息子に罰を与えた場所で、一緒に夜を過ごしました。

その息子が成長して、中国に行って宣教師として奉仕するようになったことは、あまり驚くことではないかもしれません。彼の父親は、神様が人間に対して持つておられる心を、息子に見せてくれたのです。神様は、罪をまるで無かったもののようにうやむやにしたり、取り除いたりすることはお出来になりませんでした。なぜなら、罪が確かに存在しているからです。そして神様は、罪の痛みを取り除くこともお出来になりませんでした。



なぜなら、痛みは、この世界が今間違っているという事実を証明するものだからです。

そこで、神様のみ子が人となられ、罪人と共に住むために、この地に来て下さったのです。死刑執行を待つだけの刑務所となった地上で、人間と共に話し、手をつないで横になられたのです。まさにこのような方が神様なのです。今、神様はあなたと私のそばにいて下さり、私たちに、罪を憎む心を与え、この世が決して与えることのできない、清さと純潔を慕い求める助けをして下さっておられます。

神様の愛を理解する人ほど、罪を憎まれる神様の心を理解出来るのです。

カルバリーの十字架で流された血が、私たちに向かって、神様の愛を叫んでいます。そのような愛に、私たちがどうして応えずにおられるのでしょうか！そして私たちの心の内に、このような叫びが湧き上がって来ることでしょう。「父よ、私はあなたを愛しています。あなたが望まれるのであれば、何でも喜んで従います。あなたに私たちの愛をお見せします。私たちの生涯と奉仕と、私たちが持っている全てをあなたにお捧げします！」。このような思いが、私たちの心を熱く燃やすのではないのでしょうか。

皆さんはまだ、このお方の愛のメッセージを見出せずにおられるのでしょうか？もし皆さんが、目と耳を開き、心を開いて聖書の言葉を学ばれるなら、生涯を一変させずにはおかない神様の愛をお知りになられることでしょう。そしてあなたや私を救うために、全宇宙を与えても惜しくないほどに愛に狂ってしまわれた、神様のラブレターを読まれることになるでしょう。

神様はもう一度、失われた人類と共に住むことを願っておられるのです。

イエス様は死よりも強い愛をもって、あなたと共にいたいのです。

《神は愛》なのです。

SOSTV Japan Mission 紹介



1. sostvjp.net

聖書研究用書籍、BibleNavi小冊子(32シリーズ)、インターネット説教、ブログ、SNS、書籍を多数揃えています。(今後も、料理番組、預言セミナー、ダニエル書、黙示録研究書籍、信仰書籍、月刊誌などをご用意する予定です。)

2. 書籍



聖所



手遅れになる前に



福音の力を体験せよ



Remember Me



新生への道



信仰のリバイバル

3. YouTube <JAPAN SOSTV>

SOSTVジャパンミッションの礼拝用説教、ショートメッセージ、聖書セミナー、聖書研究、預言研究の動画等をご覧になります。



SOSTVジャパンミッションのすべての資料は無料でお届けしております。この時代に真理の教えを祈り求めておられる皆様、いつでもこちらの電話番号やメールアドレスにご連絡くださり、資料をご請求いただければ幸いです。

TEL: 050-1141-2318 E-mail: sostvjapan@outlook.com



SOSTV WORLD

| | |
|----------|---|
| 日本 | 050-1141-2318, sostvjapan@outlook.com |
| 韓国 | 1544-0091, sostvkr@hotmail.com |
| 中国 | sostvnet@hushmail.com |
| アメリカ | 1-320-500-1004, sostvus@hotmail.com P.O.Box 787 Commerce, GA 30529 |
| ニュージーランド | 0800-42-3004(フリーダイヤル), 649-420-2556, sostvnz@gmail.com |
| オーストラリア | 0425-284-718 sostvau@hotmail.com |



SOSTVIにご支援を希望されますか？

SOSTVIは、読者の皆さんの後援で運営されている宣教ミニストリーです。皆さんの真心からお贈りくださる尊い献金は、より多くの方々に真理をお届けするために、大切に、また慎重に用いさせていただくことをお約束いたします。冊子をご覧になり、心に感銘を受けられた方は、次の口座に後援のほどをよろしく願いたします。

【後援案内・振り込み先】

ゆうちょ銀行
記号 10570
番号 48323841
名称 SOSTV ジャパン ミッション

(他銀行からの振込み)

ゆうちょ銀行
店名 〇五八
店番 058
預金種目 普通預金
口座番号 4832384
支店名 大多喜郵便局

sostvjp.net

Save Our Souls

正しい人のために死ぬ者は、
ほとんどいないであろう。善人の
ためには、進んで死ぬ者もあるい
はいるであろう。しかし、まだ罪人
であった時、わたしたちのために
キリストが死んで下さったこと
によって、神はわたしたちに対する
愛を示されたのである。

(ローマ 5:7,8)
